2021 年 1 月 19 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

＜研究課題名＞
一般病棟における多職種協働による医療用麻薬注射剤調製システムの有用性に関する研究

1. 調査期間
2017 年 7 月～2020 年 3 月 31 日

2. 対象
藤田医科大学七栗記念病院一般病棟に勤務する看護師 19 名

3. 研究目的、意義
本研究では、七栗記念病院の一般病棟における新たな試みとして、看護師の代わりに薬剤師が主体的に医療用麻薬注射剤（麻薬）調製を行うシステムを構築しました。研究目的は、本システムの有用性を評価するため、システムの実績、看護業務への影響をシステムに係った看護師にアンケート調査をすることです。
病院における麻薬の調製は、本来であれば、薬剤師が行うべき業務と考えられます。しかしながら、抗がん薬、高カロリー輸液以外、無菌製剤処理料の算定が認められていないなどの理由から、薬剤師による調製は、ほとんど行われていないのが現状です。一般病棟は、混合病棟の場合、複数の診療科が混在することで、業務が繁雑になる可能性が考えられます。従って、安全に麻薬を取り扱うために、薬剤の管理および調製を専門とする薬剤師が介入することは重要であり、その評価を行うことは大変意義のある研究と考えられます。

4. 方法
本研究は、2017 年 7 月から麻薬調製システムの運用を開始しています。研究対象者に対しては、麻薬調製システムの運用開始 1 年後以降をシステム運用安定期と設定し、アンケート調査（薬剤師による麻薬調製に対する看護師の意見、看護業務短縮時間、看護業務の質の変化）を実施します。
システム運用の実績評価は、薬剤師・看護師の麻薬調製件数の変化、医師に対する麻薬処方に係る提案（疑義照会内容、件数、変更率)、麻薬調製システムの安全性の評価（麻薬事故、廃棄届、インシデント件数および内容の調査）を行

います。

5.　外部への試料・情報の提供
　なし

6.　研究に係る費用
　本研究は、過去の電子カルテのデータ、および、看護師へのアンケート調査を行う研究であるため、外部の研究資金は利用しません。なお、本研究は、藤田医科大学利益相反委員会へ申請を行い、適切な利益相反マネジメントを受けています。
　本研究を行うことで、通常の診療と比べて、患者さんの経済的負担が増えること、あるいは、謝礼はありません。

7.　研究組織
研究責任者:
藤田医科大学岡崎医療センター薬剤部: 上葛 義浩（うえくず よしひろ）
TEL: 0564-64-8800、FAX: 0564-64-8129
E-mail: yuekuzu@fujita-hu.ac.jp